



萌木

11月



調布市立第七中学校

校長 山田 勝

令和4年11月11日発行

～自尊・立志・感動～

ふれあい月間、そして様々な成長

校長 山田 勝

11月は東京都が進める「ふれあい月間」です。都内全公立学校で取り組みを進めています。いじめの防止・自殺の予防・犯罪非行の防止や不登校の対策に関わる取組状況を把握し、課題・解決策を検討して、組織的な取り組みを推進していくためです。

このうち、いじめの防止については、この取り組みを通して生徒一人一人に、いじめをしない・させない社会的資質の涵養と、行動できる力を育てることを目標にしています。

取り組みのひとつの「あいさつ運動」については、七中VNW（ボランティアネットワーク）が中心となり取り組んでくれました。

先月19日には、調布グリーンホールを会場に七中本校の合唱コンクールを行いました。9月に行われた校外での活動、調布しらべ、校外学習、修学旅行では、班ごとに行動することも多い活動でしたが、合唱コンクールは、クラス全員がまとまって取り組む行事です。合唱は指揮者と伴奏者以外横に並んでお互いが視界にない中で、指揮者の合図で声を合わせ、指揮者の向こうの聞き手に声と心を届ける、そのような活動です。歌い手がその合唱を通して伝えたいこと・気持ちのベクトルをそろえて歌うことが大切です。13のクラスそれぞれが、曲に乗せ聞き手にメッセージを届けてくれました。

また、31日は七中分教室はしうち教室の総合文化祭でした。展示や好きなもの紹介、合唱合奏など、各自ができることに精一杯取り組んだ成果を披露してくれました。

どちらの取り組み・活動も、他者と互いの発表を通して触れ合うことで、それぞれの人としての素養を広げていくことができるものだと思います。他者の真剣な活動に触れ自らの姿勢を正し、良い受け取り手となる時間を経験することができた活動であったと思います。

全校朝礼では、この取り組みを価値化してほしいと願い次のような話をしました。

《前略》ここで一つ質問です。ひとという言葉を頭の中で思い描いてください。

あなたが思った字は、漢字ですか、ひらがなですか、それともカタカナですか。漢字・ひらがな・カタカナ、と聞くと、それぞれ違ったイメージがありませんか。一人一人感じ方は違うと思いますが、表し方の違いでどんなイメージになるでしょう。カタカナの「ヒト」は、なんとなく生物学的なイメージがあります。漢字の「人」だと、知識を得て社会を構成している市民としての存在も感じます。ひらがなの「ひと」は、その中に相手への思いやりの気持ちなど心遣いができる状態まで含むのではないのでしょうか。

中学校での活動をこの考えにあてはめてみると、教科の学習をし、知識を得て考える力を磨くことは、カタカナの「ヒト」から漢字の「人」への成長の活動につながると思います。そして、行事やあいさつなどを通してふれあうことで、仲間と心を通わせることが、ひらがなの「ひと」へとなることだと解釈しました。

七中では先週VNWの活動であいさつ運動に取り組んでくれました。あいさつをする側、あいさつを受けて答える側。どちらのときも、心が通った気持ちを感じられたと思います。このようにふれあうことで、少しでも温かい気持ちで人に接することができるようになるのではないのでしょうか。ひらがなの「ひと」の関係の集団を作り、学習に取組み、漢字の「人」へと成長する。七中の全クラスが、全生徒がそのような関係の集団になってくれることを期待しています。

そしてその集団の中で一人一人が未来に夢と希望を持ち挑戦していく人になってほしいと思います。